

令和5年第12回

札幌市教育委員会会議録

令和5年第12回教育委員会会議

1 日 時 令和5年7月24日(月)13時30分～17時30分

2 場 所 STV北2条ビル6階 A・B会議室

3 出席者

教 育 長	檜 田 英 樹
委 員	阿 部 夕 子
委 員	佐 藤 淳
委 員	石 井 知 子
委 員	道 尻 豊
委 員	中 野 倫 仁
教育次長	竹 村 真 一
生涯学習部長	木 村 良 彦
学校施設担当部長	池 田 秀 利
学校教育部長	長谷川 正 人
音楽小委員会委員長	山 田 健 一
教科用図書選定審議会委員	河 合 博 子
図画工作小委員会委員長	富 波 修
教科用図書選定審議会委員	森 岡 香 子
社会小委員会委員長	石 川 篤 司
教科用図書選定審議会委員	吉 田 卓 矢
算数小委員会委員長	加 瀬 富 久
教科用図書選定審議会委員	高 橋 謙 介
生活小委員会委員	渋 谷 一 典
教科用図書選定審議会委員	村 井 悠 介
児童生徒担当部長	廣 川 雅 之
教職員担当部長	佐 藤 圭 一
総務課長	前 田 憲 一
庶務係長	新 井 達 之
書 記	鶴 江 哲

4 傍聴者 25名

5 議 題

協議第1号 令和6年度使用教科用図書を選定について

【開 会】

○**檜田教育長** これより、令和5年第12回教育委員会会議を開会いたします。
本日の会議録の署名は、道尻豊委員と中野倫仁委員にお願いいたします。

【議 事】

◎**協議第1号** 令和6年度使用教科用図書の選定について

○**檜田教育長** それでは、議事に入ります。議案第1号「令和6年度使用教科用図書の選定について」です。では、改めて、私から教科書採択の流れを確認しますが、前回、事務局から説明がありましたとおり、4回の教育委員会会議を開催して審議することになります。

○**檜田教育長** 4回の教育委員会会議のうち、選定のための審議は前回7月21日と本日、及び8月3日(木)の計3回で行い、その結果を受けて8月9日(水)の4回目で採択する運びになります。前回の1回目で、小学校部会及び小学校部会と兼ねている義務教育学校前期課程部会の5つの小委員会を対象に審議を行いましたので、2回目の本日は、国語、理科、家庭、体育、道徳、外国語の順に、残りの6つの小委員会を対象とします。それでは、前回と同様に進めていくことでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、このような流れで、小委員会ごとに審議を進めていきます。まず、各種目の審議に入る前に、教科書採択の任を負っている私たちは、札幌市の教科書採択の公正・中立性をしっかりと確保しなければなりません。私から委員の皆さんに、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** ただ今、みなさんから「影響力の行使や圧力等はなかった」との回答をいただきましたので、私たち6人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保しうるものであると判断いたします。

○**檜田教育長** では、審議に入ります。まず、「国語」と「書写」から始めます。審議を始める前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、国語小委員会の委員長、調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○**国語小委員会委員長** 小学校部会国語小委員会委員長の田中でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「教出」「光村」の3者、合計32点の教科書です。これらについて、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、国語小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

採択参考資料のインデックス〔国語・採択参考資料〕の国語1をご覧ください。

この様式1の【教科の目標】をご覧ください。学習指導要領では、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指しており、「日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにすること」「人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うこと」「言葉がもつよさを認識し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うこと」などが重視されております。

国語2ページをご覧ください。ここから、国語11ページまで調査研究結果を示しております。

国語2から7ページには、「様式2」が各者2ページずつ掲載されております。国語3をご覧ください。このページの下欄「使用上の配慮等」のうち、2点目の「児童が主体的に学習に取り組めるような工夫」に、特に各教科書の特長がみられましたのでご説明します。

各者3年生上の教科書を用いてご説明いたします。

東書3年上、巻末の折込をご覧ください。「言葉の力のつながり」で、これまでの学びが次の学びへとつながることを子どもが自覚できるように、「言葉の力」

の一覧ページを設けています。教出3年上4ページ、5ページをご覧ください。巻頭に「ひろがる言葉 3年生で学ぶこと」を設け、子どもがどのようなことを学習するのか見通すことができるようにしております。

光村3年上5ページから13ページをご覧ください。「国語の学びを見わたそう」では、国語を学ぶ意義や呼びかけ、学習の進め方を示しています。8ページからは、上の段でその学年で学ぶ言葉の力を示し、下段ではこれまでに学んだ学習内容を示しています。子どもが年間を通して見通しをもち、主体的に学習に取り組めるような工夫がされております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申のインデックス国語の〔国3〕ページをご覧ください。

国語においては、6つの具体項目について調査研究いたしました。そのうち、1の(2)『書くこと』領域における課題探究的な学習の取扱い、1の(3)『読むこと』領域における課題探究的な学習の取扱いについては、特に各教科書の特長がみられましたのでご説明させていただきます。

まず、1の(2)『書くこと』領域における課題探究的な学習の取扱いについてご説明いたします。

東書3年上56ページをご覧ください。第2学年以降、単元の始めに「見通す」ページが設定されており、「言葉の力」で何を学ぶのか明示されています。となりの57ページでは、言語活動で取り組む説明文の例が示されています。子どもが活動を始める前に、文例などで、具体的な学習を思い浮かべ、書くことの活動に見通しをもって取り組むことが可能な内容となっています。

次に教出6年上58ページをご覧ください。この『みんなで作ろうパンフレット』という単元は、直前の単元で学習した「話すこと・聞くこと」領域のパネルディスカッションの学習と関連して設定されています。このような複数の領域を組み合わせながら学ぶ単元が全学年で設定されています。この単元では、パネルディスカッションの学習を通して見付かった課題や意見をもとに、他者と協働してパンフレットを作る活動が設定されており、これまでに学んだことを活かしながら、よりよい内容や書き表し方を工夫することが可能な構成となっています。

光村3年上98ページをご覧ください。単元冒頭の「問いをもとう」で題材に係る問いかけがあり、自分で考えたことを、「目標」につなげることで、学ぶ意欲を高めることが可能な構成となっています。この「問いをもとう」については、市民からも複数の意見がありました。99ページ左下をご覧ください。下段に学習のポイントが示されていますが、「ほかに、大事だと思ったことはありますか。」

と自分にとって大事なことを考える呼びかけが添えられており、主体的に学ぶことが可能な構成となっています。102 ページにお進みください。(⇒画面) 単元末の「ふりかえろう」では、「知る」「書く」「つなぐ」3 観点が示され、学びを振り返ることが可能な内容となっています。

光村3年上18 ページを御覧ください。第2 学年以降、学年の初めに「楽しく書こう」が位置付けられています。このほか、128 ページを御覧ください。1 年間の学習の中頃に「書くときに使おう」が位置付けられています。これらの教材では、対話を通して表現の工夫や自分の文章のよさに気付いたり、よりよい文章に高めたりすることが可能な構成となっています。

続いて、1の(3) 『読むこと』領域における課題探究的な学習の取扱いについてご説明いたします。東書3年下76 ページをご覧ください。単元の始め、教材文の前に「見通す」ページが設定されており、見開き2 ページで大きなイラストや写真で教材への興味・関心を高める構成となっています。単元で身に付ける「言葉の力」や吹き出しを用いた子どもの発言、学習の流れ等が掲載されており、目的や見通しをもって読むことが可能な構成となっています。

教出4年下7 ページをご覧ください。教材文の前にある学びの扉では、学習のめあて、物語の教材では印象に残る本文中の表現など、意欲を喚起する一文やイラスト等が掲載されています。26 ページをご覧ください。教材文の後にある見開きでは、上の段に「たしかめよう→くわしくよもう→まとめよう→つたえあおう」という学習の流れと、下段に学習を支える吹き出しや例が示されています。26 ページの「くわしくよもう」の部分に植物の芽のマークで「言葉」とあります。こちらに関して28 ページ上の段をご覧ください。

文法的な知識や考え方を使って読みを深める「言葉」の項目が設定されており、言葉を手掛かりとしながら考えを形成していくことが可能な内容となっています。

光村6年231 ページをご覧ください。単元扉には、既習内容、文章の内容へ興味を高めるリード文が掲載されています。244 ページをご覧ください。(⇒画面) 教材文の後に、見開きで学習内容が示されており、「書くこと」領域の単元と同様に、「問いをもとう」で課題や目的を自分事とし、「目標」につなげることで読むことへの意欲を高めることが可能な構成となっています。上の段で学習過程に即して課題を示し、下段に手立てや着目する言葉を掲載し、言葉を手掛かりとしながら考えを形成することが可能な内容となっています。単元末の「ふりかえろう」では、「知る・読む・つなぐ」3 観点が示され、「書くこと」領域の単元と同様に、学びを振り返ることが可能な内容となっています。245 ページ下段をご

覧ください。第2学年以降の文学的文章の学年の最後の單元には、「選んで読み深めよう」が設定されています。読む観点を自分で選ぶことができるようになっており、別の観点で読んだ他者と関わりながら、自分の考えを広げたり、深めたりすることが可能な内容となっております。

以上、国語の答申の概要について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**中野部委員** 3者ともに同じ教材を取り扱っているものがあるのですが、該当する学年が異なっているものが見受けられました。これらは、獲得しようとする能力のねらいや傾向はあるのでしょうか。

○**国語小委員会委員長** 同じ教材を取り扱っているものは全部で7作品あります。例として、「おてがみ」という文学作品については、東書と光村は2年生、教出では1年生で取り上げられています。同一の作品が低学年と高学年などで取り扱うとなればねらいが大きく変わりますが、低学年の中で繰り返し指導するというねらいからしますと、1年生と2年生徒の扱いで子どもたちへの負担は無く、また、指導する側にとっても、学年の発達段階と指導する内容が適合しておりますので、そのずれについては問題ないものと考えます。

○**中野部委員** 同一学年で取り扱っている作品について、各者において顕著に内容が異なるものはあるのでしょうか。

○**国語小委員会委員長** 5年生の教科書で3者とも取り扱っている「大造じいさんとガン」を例に説明させていただきます。

まず、東書178ページをご覧ください。導入部分で見開き2ページとなっております。見通す、狙う言葉の力、学習の流れが位置付けられております。右上にあります狙いでは、「人物像について考えたことを伝えあおう」となっております。

次に、教出の5年生上の89ページをご覧ください。同じ作品ではありますが、こちらは「物語の山場を見つけて読みを深めよう」と作品全体の中でのメリハリに着目するという作りになっております。

最後に、光村227ページをご覧ください。こちらにつきましては「登場人物

の心情の変化に着目して読み、物語の魅力を伝えあおう」という共同的な学習を目的とする作りとなっております。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○阿部委員 2点お伺いしたのですが、1点目は書くこと領域と読むこと領域ともに他者との関わり合いが重要なポイントの一つとなっていると思うのですが、特徴のある教科書があれば教えてください。2点目は、光村では知る・読む・つなぐという3観点がありますが、他の2者についても匹敵するものがあれば教えてください。

○国語小委員会委員長 書くこと領域の点で行きますと、東書3年先生下130ページになりますが、「私のベストブック」というものがあります。こちらは全学年に通じる特徴になりますが、書くこと領域の最終单元の中で、1年間自分が書いた文書を読み返して、これまで自分が書いた文書の良さを見つけ、それらを他者と伝えあうという活動が設定されております。

教出については、6年生上58ページの「みんなで作ろうパンフレット」という活動がありまして、直前の单元の中での学習を通して見つかった課題や意見を基にパンフレットを作り、協働することで質を高めていくという学習となっております。

光村については、3年生下81ページ「わたしのまちの良いところ」というものがあります。お互いのまちの紹介文を読んで感想を伝えあう際の、その着目する点や言葉などが示されており、それを参考にしながら他者と対話して、自分の文章の良さを見つけ、書くことへの意欲をさらに高めることが可能な構成となっております。振り返りの3観点につきましても、各者共に学習の見通しということで、子どもたちが課題を見つけ、実際に取り組み、最後に追求して振り返るという過程を大事にしておりまして、すべての者において振り返りの活動を取り入れておりますが、その中で、3つの観点を明示して位置付けているのは光村特徴となっております。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**石井委員** 質問ではなく、確認なのですが、先ほど書くこと領域の点で、光村の「楽しく書こう」というものがありました。楽しくという点に関しては、他者には見られない特徴ということでしょうか。

○**国語小委員会委員長** お見込みのとおりとなります。具体的に申し上げますと、書くこと領域に関しましては、培う狙いがはっきりしており、その狙いを達成するための学習課程が色濃く出ているのですが、光村の「楽しく書こう」については、書くための技能というよりは、意欲的に書くことに対して楽しむことに主眼を置いておりますので、友達同士で楽しく会話をしながら思いを膨らませて、その思いについて書いていくということに力点を置いている単元となります。

○**石井委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**佐藤委員** 2点質問があります。1点目については、近年、高校生でも大学生でも、文章の意味を一読して正確に読み解くということが難しくなっているという点が大きく取り上げられていますが、小学校の段階で、文章の意味を把握することを念頭においた構成になっているという点において、3者でどういう特徴があるのか、小委員会内で話題になったポイントがあれば教えてください。

2点目については、「大造じいさんとガン」なのですが、前から気になっているのですが、教科書に掲載されている前段階の記載が光村にしかないのですが、前段部分に関する授業での取り扱いについて教えてください。

○**国語小委員会委員長** 1点目について、一例ではありますが、小学校3・4年生の中学年において、要約を取り扱う教材があります。文章を正確に読み、目的に沿った重要なポイントを短くまとめるという活動となります。

東書では、3年生下「せっちゃくざいの今と昔」という単元がありますが、こちらで要約する学習が示されております。4年生下「暮らしの中の和と洋」でも、目的に合わせて要約するという学習が取り入れられており、文章を整理して要約するという活動を通じて、子どもたちに的確に読む力をつけるものとなって

おります。

教出では、4年下47ページ「ウミガメの命をつなぐ」という単元がありますが、これに関しては、自分が興味を持ったことを中心に、100文字から200文字程度に要約するという、要約に加え文字制限も課されており、また、手引きには文章を表に整理する例や要約の方法が示されております。

光村では、4年生上90ページ「情報」という単元がありますが、こちらで要約が取り扱われており、説明的文章の要約や物語のあらすじを伝えるポイントが書かれております。4年生下には文章全体を200文字に要約するという活動も取り入れられております。

2点目については、3者に違いがあるものの、学習における狙いが異なることによるものであり、また、前段の有無により指導する上で大きな影響は無いものと考えております。

○佐藤委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○道尻委員 高学年における分冊と合本について、教出は分冊となっており、東書と光村は合本となっておりますが、学校意見を見ますと、分冊は重さ対策にもなるという一方、合本は学習の見通し、あるいは振り返りに有益だというそれぞれの意見がありますが、小委員会内で話題になったことがあれば教えてください。

○国語小委員会委員長 小委員会内におきましても、学校意見と同内容が話題となりました。また、中学校になりますと教科書が厚くなりますので、道具の話とはなりますが、小・中の繋がりを考えますと、重さに慣れておくという利点があるのではという意見がありました。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 今の子どもたちは、情報社会の中で生活することは避けて通れないところではありますが、その中で、国語の教科書としての長長があれば教えてください。

○国語小委員会委員長 特長としてメディア関係の教材が取り上げられております。東書6年生167「情報の信頼性と著作権」では、導入に親しみやすく漫画が取り入れられ、その後、具体的に文書による説明が設けられており、情報を鵜呑みにすることなく、いかに有益に活用していくかが書かれた教材となります。教出4年生下66ページ「メディアの特徴」では、本、新聞、テレビやインターネットというメディアの手段による特徴、その活用方法や著作権への注意も書かれております。光村5年生説明文「想像力のスイッチを入れよう」については、読むこと教材ではありますが、様々な情報の取扱い方について触れられており、メディアとの付き合い方や特徴を知ろうというものになっております。従来の紙文件だけではなく、デジタルの情報をいかに正しく理解し、自分に必要な情報を得て、発信していくかということが学べる学習が多数ある状況です。

○檜田教育長 ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。

○檜田教育長 それでは、国語は、対象となる教科書が東書、教出、光村の3者ですので、3者とも選定の候補とし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○檜田教育長 それでは、国語小委員会の委員長、続いて書写の調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○国語小委員会委員長 続いて、「書写」についてご説明いたします。

今回、「東書」「教出」「光村」の3者、合計18点の教科書について調査研究しました。

まず、調査研究の観点A、採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。採択参考資料のインデックス〔国語・採択参考資料〕の書写1をご覧ください。

この様式1では、書写に関する【学年・領域等の目標など】が示されております。書写2ページから11ページまで、調査研究結果を示しております。書写9をご覧ください。「様式4」の②にあります「硬筆と毛筆の関連を図っている教材数」について、各者の特長がみられました。3者とも、硬筆と毛筆の関連を図った教材が多数掲載されておりました。このことに関連して、3者の特長が見ら

れましたので御説明いたします。

各者5年生の教科書を用いて御説明いたします。例えば、東書5年18ページをご覧ください。初めに二つの文字で一画目と二画目の接し方を考えた後、「成長」という文字を毛筆で書き、その後、学んだことを生かして、硬筆で別の文字を書く欄が設けられております。

教出5年16ページをご覧ください。「成長」という文字をためし書きした後、毛筆で書き、その後、硬筆でもう一度書く展開となっております。

光村5年16ページをご覧ください。初めに二つの文字で画の接し方と筆順にどのようなルールがあるのか話合い、「成長」という文字を毛筆で書き、その後、学んだことを生かして、硬筆で「成長」という文字や別の文字を書く欄が設けられております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申の、インデックス国語の〔国10〕ページをご覧ください。書写においては、計2項目について調査研究を行いました。2つの項目とも各者の長がみられましたのでご説明いたします。まず〔国11〕ページをご覧ください。1つ目「課題探究的な学習の充実に向かう学習活動の取扱い」についてご説明します。東書5年20ページを御覧ください。毛筆の学習では、硬筆で示された例やなぞり書き等などから課題を見だし、右下に示されている「書写のかぎ」を踏まえ、毛筆で学びを確かにし、成果を硬筆で生かす展開とし、字体について考える学習を通して漢字の基礎を培うことが可能な内容となっております。

また、5年33ページをご覧ください。第3学年以降の「学年のまとめ」では、学習したことを振り返り、「言葉、めあて、使う筆記具」を考えて書く活動を通して学びを確かなものにし、1枚めくっていただいて34ページの下段に示されておりますように、「ふり返ろう」で他者との対話を通して自分の文字のよさに気付いたりすることが可能な内容となっております。

教出4年21ページをご覧ください。右上の「めあて」や「考えよう」で示されている言葉を手掛かりに、自ら課題を解決していくことが可能な内容となっております。毛筆の学習では、始めと終わりに硬筆で書くことで、自分の課題に気付き、毛筆の学習を経て変化した自分の文字を、始めに書いた文字と比べて振り返ることで、変容に気が付くことが可能な内容となっております。

また17ページをご覧ください。こちらの『花』という文字の学習では、他者との関わりを通して自分の書いた文字を振り返るページが設けられており、対話的な学びを通して字体について考え、漢字の基礎を培うことが可能な内容となっております。

光村6年6ページをご覧ください。全学年において、1教材1目標、見開きまたは1ページ構成が基本となっています。毛筆の学習では、「考えよう」で観察や比較を通して整った文字を書くための決まりを考える活動や、考えたことを他者と話し合う活動が設けられています。その後、「たいせつ」で示された学習のポイントを踏まえて毛筆で書き、ほぼすべての単元で、硬筆で毛筆と同じ文字や学習に関連した文字を書く活動を設けることで、主体的に字体について考え、漢字の基礎を培うことが可能な内容となっています。

21ページをご覧ください。第6学年には「書写ブック」が綴じられており、6年間で学習したことを項目ごとに示し、確認できるようにするとともに、他教科の学習や生活に生かすことが可能な内容となっております。

2つめは、〔国12〕ページ「札幌らしさを生かした学習活動の取扱い」についてご説明します。東書3年18ページを御覧ください。3年生で各地方の筆や和紙などの写真が掲載されています。また、裏表紙では、筆職人のインタビューが掲載されており、身近な事柄や地域に目を向け、文字への関心を高めることが可能な内容となっています。

教出4年40ページを御覧ください。各地方の郷土かるたが写真で掲載されており、地域に目を向け、文字への関心を高めることが可能な構成となっています。

光村の1年2ページ、3ページをご覧ください。「もじたんけんたい」では、札幌市の小学校の教室や掲示物、表示札等、様々な文字が写真で掲載されており、身近な事柄や地域に目を向け、文字への関心を高めることが可能な内容となっています。

次に光村の4年21ページをご覧ください。書写の学習活動を通して意識できる環境への取組が『みんなで考えよう「SDGsブック」』としてまとめられ、環境へ目を向けた後、ポスターにまとめる構成となっており、文字を書くことへの意欲を高めることが可能な内容となっています。

以上、答申の概要について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**石井委員** 2点質問させていただきます。1点目は、書写の内容を他の教科に活かせるような教材について、各者特長があれば教えてください。2点目は、今の時代において、手書きで文字を書くことや書写を学ぶ意義を子どもたちが考

える時間も必要だと考えますが、手書きと活字との違いについて各者特長があれば教えてください。

○国語小委員会委員長 1点目の質問については、3者ともに工夫が取り入れられております。東書では、全学年において「生活に広げよう」というページがあり、学習したことを日常生活や他教科に活かしていく具体的な各活動が示されております。教出でも全学年に掲載されており、「レッツトライ」「書いて伝えあおう」という項目があり、その中で、様々な教科や日常の手紙などに学習したことを活かしていくものがあります。光村でも全学年に「書写広げ隊」という項目があり、国語との繋がりをもたせたページや他の教科でまとめたことを活かす活動が示されております。また、6年生の教科書には、学習場面や日常生活で活かせるよう6年間で学習する書写の要素をまとめた「書写ブック」が綴じられております。

2点目については、各者意識した教材が取り上げられており、東書4年生19ページでは、「活字は読むために作られた文字」という教材があり、手書きと活字を比較し、学習を通じて手書きの良さを感じることができるものとして設定されております。教出3年生46ページ「手書き文字と活字」では、東書と同様に手書きと活字を比較する教材があります。また、4年生表紙の裏に「どんな時に手書きで書くか」など日常に繋げていくページがあります。光村5年生12・13ページ「手書きの力・手書き文字と活字」という教材があり、手書きと活字の違いや、手書きの壁新聞から受ける印象を考えて、手書きの良さを感じ取るという学習が設けられております。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○佐藤委員 石井委員の質問に関連するのですが、各者とも全学年に「活かそう」「広げよう」ということが取り上げられていますが、分量の違いはあるのでしょうか。

○国語小委員会委員長 内容的に相違はありますが、分量による差異は無いものと考えております。

○中野委員 他教科の教材を取り上げるというところですが、出版者特有の教材を取り上げているものはあるのでしょうか。

○国語小委員会委員長 3者とも国語との関連を図っていることはありますが、特有のものを取り上げているということは無いと考えております。国語と書写の関連性については小委員会内でも話題にはなりましたが、すべての教科書が学習指導要領に準拠しているとともに、各者とも差異の無い教材が取り入れられていることから、国語と書写の教科書が異なる出版者であっても不都合は無いものと考えております。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○道尻委員 光村1年生2・3ページに札幌市の小学校が取り上げられていますが、子どもたちの興味関心や指導していくうえで有意義なものとなるかなど、小委員会内で話題になったことがあれば教えてください。

○国語小委員会委員長 星置東小学校の看板や校内で使われている文字などが取り上げられておりますが、1年生は導入時期でありますので、文字というものを身近に感じて興味・関心を持たせることは他学年以上に重要な部分となりますので、私たちの住んでいる札幌が取り上げられているということによる関心の高まりと、子どもたち自身が学びの場として接している教室や様々な学校の部屋の様子から文字を学ぶという点では、学習に入りやすいという工夫がなされていると考えます。他学年においても、札幌の行事の様子など身近なものが選定されておりますので、親近感をもって取り組むということでは効果があるのではと考えております。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 それでは、書写では、「東書」「教出「光村」の3者ですので、3者とも選定の候補とし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定する

ということでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** では、そのようにいたします。国語小委員会の委員長、ありがとうございました。

○**檜田教育長** 続きまして、「理科」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、理科工作小委員会の委員長、調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○**理科小委員会委員長** 小学校部会理科小委員会委員長の田邊でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、新たに文部科学大臣の検定を経た教科書の中から送付された「東書」「大日本」「学図」「教出」「信教」「啓林館」の6者、合計24点の教科書であります。これらの教科用図書について、教育委員会が定めた「調査研究の基本方針」に基づき、理科小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、道教委が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。それでは、インデックス〔理科 採択参考資料〕の理科1ページをご覧ください。採択参考資料では、〔理科3ページ〕から、〔理科23ページ〕まで調査研究結果を示しております。そのうち、2つの項目について各者の特長が見られました。1つ目は、〔理科4ページ〕～〔理科14ページ〕の様式2の使用上の配慮等の2番目に示されております「児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫」についてです。画面の方で御説明させていただきますので、画面をご覧ください。

こちらは教出3年生の教科書150・151ページとなります。教出は、各ページの左側に、問題解決の過程を線をつないでおり、学習の流れに見通しをもて

るようにしています。この表し方については、134・135ページの「学図」にも見られます。他に、「東書」「啓林館」も線をつなぎ、学習の流れに見通しをもつことが可能な構成となっております。

次にこちらは東書3年生の教科書140ページ「学んだ後に」として、「電気の通り道について、知っていることをかこう」と、学習の振り返りを促しています。これは、130ページの学習の導入時にも同じ言葉で問いかけられており、学習前後での自分の成長を実感することができます。この構成は、「啓林館」にも見られる特徴となっております。二つ目は採択参考資料〔理科16ページ〕～〔理科17ページ〕の様式4をご覧ください。調査項目③「北海道とかかわりのある内容を取り上げている箇所数」に関して各者の特長が見られました。3年から6年を合わせると東書37箇所、教出58箇所、啓林館31箇所と、この3者において多くの取り扱いが見られました。また、札幌市とかかわりのある内容については、東書と啓林館において、多くの取り扱いが見られました。

特長が顕著であった、東書と啓林館の2者の取り扱いについて御説明いたしますので、画面をご覧ください。東書4年生15ページ「理科の世界たんけん部」及び、啓林館4年生19ページ「くらしとリンク」において、札幌市を含む5都市の季節による植物の様子を比較することができます。冬の様子についても東書の157ページ、啓林館の139ページに雪深い札幌の資料が示されております。年間を通して、他都市の自然の様子と比較することができ、四季の特徴がはっきりとした札幌市の特徴に気付くとともに、季節による温度の変化と植物の成長との関係を捉えていくことが可能な内容となっております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申のインデックス〔理科〕の理2ページをご覧ください。理科においては、ここにあります通り、No.1からNo.3までの6項目について調査研究を実施いたしました。そのうち、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」、1の(2)「科学的リテラシーを育む学習活動の取扱い」については、各者の特長が顕著にみられましたのでご説明させていただきます。

まず、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」についてご説明いたします。答申のインデックス〔理科〕の理3・4ページをご覧ください。ここでは、自然事象への働きかけを通して、自ら疑問や課題を発見し、他者と関わりながら解決を目指す学習活動が可能な内容となっているか、という観点で調査研究を行いました。

各者とも、課題探究の過程を重視し、予想や仮説を基にした観察、実験を中心に学習が展開できるような内容となっておりますが、子どもが「問題を発見する」

過程と、他者と関わりながら主体的に追究する姿を引き出すための構成について各者の長が顕著に見られましたので、ご説明いたします。

なお、ここからは、画面と共に、教科書も手に取っていただきながら、御説明させていただきます。まず、子どもが「問題を発見する」過程についてです。教科書「東書」4年38、39ページをご覧ください。単元の冒頭「レッツトライ」において、モーターで回る扇風機を実際に動かすと、風の向きが人によって違うという現象から、気付いたことや疑問を話し合う活動が位置付けられています。次に40ページをご覧ください。子どもの体験や疑問をもとにして「モーターの回る向きは、何によって変わるのだろうか。」という問題が示されており、子どもの素朴な考えや柔軟な発想を引き出すことが可能な構成となっております。

次に、子どもが他者と関わりながら追究する過程についてです。「教出」5年63ページをご覧ください。振り子の一往復する時間を変える要因について、「予想しよう」において、「長さ」「重さ」「ふれはば」の3通りの予想が示され、それぞれの計画が掲載されています。65ページからは「実験はA、B、Cのどれから調べてもよい」と示されており、子どもの思いに沿って実験方法を決めることで、他者と関わりながら主体的に解決を目指すことが可能な構成となっております。他に、3つの実験を横並びに掲載しているのは、大日本と信教です。こちらは、画面をご覧ください。大日本の129ページでは、実験1-1、1-2、1-3と示し、それぞれの実験方法で追究していく展開が掲載されています。信教の148・149ページでは、それぞれの実験計画、予想等について2ページにわたり掲載されています。

次に、1の(2)「科学的リテラシーを育む学習活動の取扱い」についてご説明いたします。答申の理5・6ページをご覧ください。ここでは、観察、実験を通して得られた情報や結果を整理する過程と、考察して結論を見いだす過程において、より妥当な考えをつくり出すことが可能な構成になっているかについて調査しました。

まず、「観察実験の結果を整理する」過程についてです。東書5年106ページをご覧ください。物が水に溶ける量の変化を調べる実験において、結果をプロット図に整理することで、溶ける量の変化を傾向として捉えられる構成となっております。実際の授業では、グループによる結果のばらつきが生じるものですが、プロット図で位置付けることで、変化の規則性に気付いていくことができます。この単元においては、他に啓林館5年の150ページには、結果をプロット図に整理する例を記載しております。こちらについては、画面をご覧ください。自分の結果だけでなく、他のグループの結果も位置付けることで、客観性を伴って考

察することが可能な構成となっております。こちらは、同じ単元の大日本5年116ページの取り扱いです。溶けたか溶けないかを○、×で表に記録し、整理する例が示されております。本單元においては、東書、啓林館以外の他者は、大日本と同様に主に表で整理する例が示されています。

次に、考察して結論を見いだす過程についてです。教出6年20ページをご覧ください。ろうそくが燃える前後の空気の変化について、気体検知管が示した結果を基に、物が燃えたときの様子をモデル図で考察できるように工夫されております。「酸素が減った。二酸化炭素が増えた。」という結果にとどまらず、「酸素の一部が使われて減り、二酸化炭素ができて増える。」と結論でまとめられており、空気の質的变化に対する、より妥当な考えをつくり出す学習活動が可能な構成となっております。

同じ単元の同じ場面として、東書6年20ページを開いていただき、ご覧ください。気体検知管が示した結果、石灰水の色の変化、酸素センサーの数値を比較しやすいように、紙面が構成されており、考察する場面が設定されております。教出と同様に、「酸素が減った。二酸化炭素が増えた。」という結果にとどまらず、「物が燃えると、空気中の酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができる」と「まとめ」に記載されており、燃焼前後の空気の質的变化に対する、より妥当な考えをつくり出す学習活動が可能な構成となっております。

以上、理科について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**阿部委員** 科学的リテラシーの説明のところで、東書と啓林館では結果をプロット図でまとめており、他者は表でまとめているとのことでしたが、子どもたちにとって、どちらがわかりやすいというのはあるのでしょうか。

○**理科小委員会委員長** 表については、数値で解釈していくことから、子どもたちは「変化していくはず」だと考え、わずかな数値の違いでも変化があったものと捉えてしまいますが、プロット図ですと、傾向としてとらえやすいというところかと考えます。5年生の物の溶け方に係る学習ではプロット図で整理することが有効であると考えます。

○**阿部委員** わかりました。ありがとうございます。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**石井委員** 環境に関する学習活動について、自然災害や環境問題に関する取扱いに各者の特長があれば教えてください。

○**理科小委員会委員長** 環境問題については、昨今、非常に大きな問題となっておりますので、各者ともに掲載しており、大きな差異は無いものと考えておりますが、東書6年生「生き物同士の関り」では、動植物と水との関りについて、自分たちで調べたり考えたりするという活動が設定されております。こういう活動を位置付けることによって、水の重要性を実感できる構成であると考えます。併せて、防災教育に関しても触れさせていただきますが、啓林館5・6年生の地学の単元で「with earth」というページが掲載されております。東書では、単元の学習内でどのような災害が起きるのかを考えて話し合うことが設定されており、防災意識を高めるという内容になっております。啓林館と東書については、自分たちに出来る取り組みという内容に位置づけられています。

○**石井委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**中野委員** 身近なものに科学的な問題を感じるのが面白いと考えるのですが、東書6年生173ページに札幌ラーメンのこしの強さが取り上げられており、札幌になじみ深いものとして面白いと思いました。他者でも札幌になじみ深いもので顕著なものがあれば教えてください。

○**理科小委員会委員長** 身近な教材となりますと、教出5年生では時計台が取り上げられております。信教は長野に限った話になりますが、身近なものが取り上げられております。

○**中野委員** わかりました。ありがとうございます。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**道尻委員** 学校意見を見ますと、器具の使い方や実験の注意事項について触

れられておりますが、各者の違いや特長があれば教えてください。

○理科小委員会委員長 各者ともに機材の使い方を丁寧に扱っており、また、QRコードでも確認することができるなどの工夫がなされており、大きな差異は無いものと考えております。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございます。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 それでは、私から小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料からみた場合、特徴が顕著な教科書はどの教科書になりますか。その理由と併せて、お聞かせください。また、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○理科小委員会委員長 調査研究の観点Aに関して、特長が顕著な教科用図書は、「東書」「教出」「啓林館」の3者となります。理由としましては、3者とも学習の流れに見通しを持てるよう問題解決の過程を明確にした構成となっており、主体的に学習に取り組むことが可能な工夫がされております。また、「東書」「啓林館」では、札幌の四季による植物の変化を一年間継続して観察できる構成となっております。3者とも本市の子どもたちが理科に対して興味・関心を持って学んでいくための工夫が見られることが理由です。調査研究の観点Bに関して、「東書」「教出」の2者となります。理由としましては、2者とも子どもたちが実験結果を整理・考察する活動が位置づいており、より妥当な考えを作り出すことが可能な構成となっております。

○檜田教育長 ただ今の意見によりますと、観点Aにおいて、特徴が顕著であった教科書は、学習の見通しが持て、子どもたちが問題解決に向けて主体的に取り組んでいける、また、理科に対して興味・関心を持って学べる工夫がみられるということから、「東書」「教出」「啓林館」ということでありました。観点Bにおいては、実験結果を整理・考察する活動が位置づいて、より妥当な考えを作り出す学習活動が可能な構成であるという理由から、「東書」「教出」とのことでした。

これにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

○中野委員 観点Bについて、啓林館が除かれていることについて、東書、教出と差はどの部分になるのでしょうか。

○理科小委員会委員長 東書において、現行は「レッツスタート」という取組が掲載されておりますが、新たな教科書には「レッツトライ」という、子どもたちが主体的に関わろうとする取組が掲載されており、すべてにおいて大きく変わったところではあります。4年生の電流の働きを例にしますと、扇風機を使って、モーターの回転が違うことによって何が違うんだろうかということを中心に問題解決できる工夫がなされており、他者と異なるものとなっております。教出も同様の工夫が見られたことから、観点Bに関しては2者としました。

○中野委員 その工夫の差異によるものが除かれた理由ということで良いでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 決して啓林館が当てはまらないという訳ではなく、先ほどの事例で説明しますと、同じように子どもたちへの自然自習への働きかけから始まっており、その後、気付いたところで話し合いをし、問題を見つけるという過程は変わりません。ただ、より妥当な考えを作り出すという過程において、東書と教出においては、例えば物の溶け方の質的变化について、「結論」や「まとめ」といった形で明示されていることが、科学的リテラシーとして突出しているものと考え、2者といたしました。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○佐藤委員 理科においては、様々実験を行うところですが、結果から得られた内容を一般化・抽象化してまとめるもの、多くの事例を取り上げることに特化したという違いが見受けられました。事例のみを多く取り上げているものと、その事例のみに限った考えになることから、抽象度を高くまとめられるものが良いと考えており、そういった理由から、「東書」と「啓林館」が良いかと考えます。また、特長がある者には選ばれておりませんが、大日本は非常に面白く、

中小度の高いルールと使った事例とが併記されているという面白い特徴となっております。ただ、特長のある者の中でということでは「東書」と「啓林館」の2者となります。

○中野委員 私も、「東書」と「啓林館」が良いかと考えます。

○阿部委員 私は、「東書」と「啓林館」に加えて、「教出」の教科書の表現が子どもたちにとってわかりやすいのではと思いましたが、3者が良いかと考えます。

○石井委員 私は、絞り込むのであれば「東書」が良いかと考えております。観点A・Bに加えて、3年生に上がった子どもたちが、生活から理科に変わった際に教科書が見やすいこと、先ほど質問をしましており、災害や環境問題がわかりやすいことが理由となります。

○道尻委員 私は、「東書」と「啓林館」と「教出」の3者が良いかと考えます。

○檜田教育長 先ほど説明がありました、札幌の子どもたちの課題である科学的な思考判断や課題探究的な学習という点からしますと、振り子を例にしても、結論が先にありきではなく、子どもたちの様々な思考を大事にしながら、結論に導いていくという部分も見られますので、委員の皆様の見解を踏まえて、「東書」「教出」「啓林館」の3者に絞らせていただく形でよろしかったでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、8月3日(木)に引き続き審議を行い、1者を決定するという事といたします。理科小委員会の委員長、ありがとうございました。

○檜田教育長 続きまして、「家庭」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、家庭小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○**家庭小委員会委員長** 小学校部会家庭小委員会委員長の近でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「開隆堂」の2社、合計2点の教科書であります。これらの教科用図書について、教育委員会が定めた基本方針に基づき、家庭小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。インデックス「家庭 採択参考資料」を御覧ください。採択参考資料では、〔家庭2ページ〕の「様式2」から、〔家庭6ページ〕の「別記」まで調査研究結果を示しております。そのうち、〔家庭6ページ〕にあります様式4の調査項目③「北海道とかわりのある内容を取り上げている資料等の箇所数」について、各者、特徴が見られました。

東書では、資料としては、地域の料理の例として「北海道の石狩なべ」を取り上げています。

開隆堂では、4箇所掲載がありました。スクリーンにあるように、「だしの材料と主な産地の例」として「こんぶ」や「各地に伝わるみそやみそ料理の例」として「ちゃんちゃん焼き」、地域のおやつの例として「いももち」、「住まいの音と快適さ」では「豆知識」として「残したい“日本の音風景100選”」を掲載していることが特長となっております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」に基づいた調査研究について御説明いたします。インデックス家庭の〔家2〕ページをご覧ください。家庭においては、調査研究項目としてここにあります通り、No.1からNo.3までの計3項目について調査研究を実施いたしました。そのうち、No.1の（1）「課題探究的な学習活動の取扱い」、No.3の（1）「札幌らしさを生かした学習活動の推進」について、各者の特長がみられました。答申〔家4〕ページをご覧ください。まず、No.1の（1）「課題探究的な学習活動の取扱い」について説明いたします。ここでは、「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考えて実践したことを見直し改善することを通して、達成感や実践する喜びを味わい、次の学習へ主体的に取り組もうとする意欲を高めることが可能な内容となっているか。」を観点として調査研究を行いました。各

社において顕著な特長が見られました。

東書巻頭見開き2、3ページをご覧ください。東書は、「家庭科のまど」を見開き裏面で示し、5年生の最初の時間の「ガイダンス」において、生活の営みに係る見方・考え方を確認することができるよう工夫されております。同じく、東書20ページをご覧ください。3ステップで学習を進めていけるようになっていきます。はじめに「家庭科の窓」で大切にしたい「見方・考え方」が示されております。その見方・考え方に関連した「写真」と「学習の流れ」の記載もあるため、解決方法を考える際の「見方・考え方」がイメージしやすいような構成となっています。

次に開隆堂です。巻頭の見開き3ページをご覧ください。こちらも3ステップで構成されています。特長としては、「1（気付く・見つける）」のステップでは、「なぜ〇〇なのだろう」などと、自分の生活を振り返るところからはじまることです。最初に、自分の家族や地域を見つめ直して、課題を見つけて、見直しをもって学習していくことが可能な構成となっています。また、どの題材においても、はじめに、大切にしたい「見方・考え方」が、「四葉のクローバー」で示されています。さらにその下に「学習のめあて」が掲載されているため、「見方・考え方」をはたらかせながら、学習を進めていくことが可能な構成となっています。この点は学校意見にも同様の意見がありました。

次に東書6、7ページをご覧ください。巻頭の「成長の記録」では、内容ごとにチェック項目や「次へのチャレンジ」で学びの振り返りを書き込むことができることが特徴です。学んだことを今後の生活に生かすことができる内容になっていることも特長です。

続いて、開隆堂124ページをご覧ください。題材ごとに「学習をふり返ろう」や「生活に生かそう」で自分の考えを記入する欄が設けられております。さらに巻末136、137ページをご覧ください。このページには「2年間の学習を中学校につなげよう」の記載があり、小学校での学習を振り返って今後の生活に生かすことができる構成となっています。

最後に、3の(1)の「札幌らしさを生かした学習活動の推進」について説明いたします。ここでは、「ふるさと札幌の美しい自然や環境を守るために、ごみの減量など環境保全に配慮した生活の工夫や季節に合わせた着方や住まい方の工夫、食生活の工夫を考える学習活動を通して、身近な環境をよりよくしようとする態度を身に付けることが可能な内容になっているか。」を観点として調査研究を行いました。各社において顕著な特長が見られました。

東書36、37ページをご覧ください。「持続可能な社会へ物やお金の使い方」

では、生活の中での買い物などの消費行動から資源や環境に配慮した生活を考えていく流れとなっています。東京書籍92、122ページをご覧ください。「夏すずしくさわやかに」と「冬を明るく暖かく」では季節ごとに住まい方と着方を関連付けています。季節ごとに、生活を快適に整えることについて学び、身近な環境をよりよくしようとする態度を身に付けていく流れとなっています。

次に開隆堂です。132ページをご覧ください。「持続可能な社会のために」の題材が設けられていることが特長です。5・6年生での学習の終わりに、これまでの学習を生かして自分の生活と身近な環境との関係に気付くことができる構成となっているため、よりよい生活の仕方を工夫する学習が可能な内容となっております。スクリーンに79ページを示しましたが「一日一つのエコ宣言」や「省エネルギー行動」の表は、ゼロカーボン都市を目指している札幌の取組と関連付けることも可能です。続いて、開隆堂について72ページをご覧ください。開隆堂では、住まいとき方の題材ごとに学習する流れになっており、季節について考える機会が2回設けられます。また「暖かい住まいで快適に」では、様々な暖房器具が多く掲載されています。さらに73ページの「生かす・深める」のところでは、住まいのアドバイザーになって、寒くて困っている集合住宅で快適に過ごせるように等、住まい方を工夫する内容が掲載されています。そのため身近な生活環境と関連付けた学習が可能な内容となっています。

以上、家庭科について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**檜田教育長** それでは、私から伺います。近年、災害が多くなってきている中でもより過ごしやすいということが求められていると思いますが、そういった点が触れられている部分があれば教えてください。次に、家庭科の授業では調理実習を楽しみにしているかと思うのですが、それらについて札幌の子どもたちに特長あるものがあれば教えてください。

○**家庭小委員会委員長** 自然災害に備えた自遊空間の整え方については、中学校の「住居の機能と安全な住まい方」で学習することとなっております。小学校では、食生活や家族・家庭生活の内容と関連させて、東書は災害への備えとして、開隆堂は防災として、それぞれ教科書の中にマークで示しております。また、東書では衣食住の題材の中でもいくつか示されており、特に、常備してある缶詰や

レトルト食品を使った調理の例として、119ページに掲載しているのが特長です。開隆堂も同様に、衣食住と関連させていくつか掲載されておりますが、特に巻末144・145ページに家庭や地域の安全・防災について見開きで掲載しており、各内容の学びを活かし、支えあいながら生きていくことを考えることが可能な内容となっていることが特長です。

続けて、調理実習については、子どもたちが楽しみにしている活動ですが、家庭によって実態に大きな差があることから、一人一人丁寧に指導し、実際に手を動かして子どもたちが体験的に学んでいくことができるよう授業を構成していく必要があります。コロナ禍においてはグループでの活動は制限されたことから、一人一品を必ず作るという活動がメインとなっており、それが子どもたちへの技能の定着に非常に効果的だったという話もありました。5年生の茹でる学習では、学習指導要領で題材指定されている青菜とじゃがいもなどが取り扱われることとなっておりますが、その他にほうれん草を扱う学校や、札幌市でも栽培していることから地産地消にも繋がり、また、給食にも使われており馴染みのある小松菜を扱う学校もあります。小松菜については、調理実習以外にもフードリサイクルとの関係から食指導の方でも馴染みがあり、それらの取扱いが多かったのは開隆堂となります。

○**檜田教育長** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**佐藤委員** 開隆堂の「なぜ〇〇なのだろう」については、前の教科書から掲載されていたのでしょうか。

○**家庭小委員会委員長** はい、されておりました。

○**佐藤委員** こういった発問をすることによって、子どもたちは動議付けされるといったことはあるのでしょうか。

○**家庭小委員会委員長** まず、なぜと問いかけられたときに、子どもたちが振り返るのは自分たちの身近な生活になりますので、その中から課題や答えを探そうとして考え始めるというところから活動が始まるものと考えます。

○**佐藤委員** 特に問い方によって変わることはないということで良いでしょ

うか。

○**家庭小委員会委員長** 問いかけが無ければ、考えるに至らず学習するだけにとどまってしまうので、家庭との繋がり、自分の生活との繋がりがあるところから学習を始めることによって、意欲、意識や学習後の実践への向かい方が変わるものと考えます。

○**佐藤委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○**檜田教育長** それでは、「家庭」は、対象となる教科書が「東書」「開隆堂」の2者ですので、2者とも選定の候補とし、8月3日(木)に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** では、そのようにいたします。家庭小委員会の委員長、ありがとうございました。

○**檜田教育長** ここで10分間の休憩といたします。

(休憩)

○**檜田教育長** それでは、会議を再開いたします。

○**檜田教育長** 続きまして、「体育」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、体育小委員会の委員長、調査研究報告(答申)の説明

をお願いいたします。

○**体育小委員会委員長** 小学校部会、体育小委員会委員長の嶋本でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「大日本」「大修館」「文教社」「光文」「学研」の6者、合計12点の教科書であります。これらの教科用図書について、教育委員会が定めた「調査研究の基本方針」に基づき、体育小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。採択参考資料「体育 採択参考資料」のインデックスの〔保健1〕ページをご覧ください。保健においては、様式1にありますように【教科の目標】【学年・領域等の目標など】が設定されております。その隣の〔保健2ページ〕から〔保健16ページ〕まで、調査研究結果を示しております。そのうち、〔保健2ページ〕から〔保健13ページ〕までの「様式2」の「取扱内容」にある〔第5、6学年「けがの防止」〕について、各教科用図書の特徴がみられました。スクリーンをご覧ください。

こちらは、東書の5・6年生の20・21ページです。学校と地域に分かれたイラストから、事故やけがにつながりそうな場面を探す活動が設けられており、具体的な生活場面を想起しながら危険を回避する方法を考えることが可能な内容となっております。

続いて、こちらは大修館の5・6年生の24・25ページです。学校と地域の危険な場面の大きなイラストが分けて示されており、それぞれ危険を予測するとともに、回避する方法を考える活動を通して、安全に行動することや、危険を回避する環境づくりについての理解を深めることが可能な内容となっております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申体育のインデックスの〔体2〕ページをご覧ください。体育においては、ここにありますように、調査研究項目としてNo.1からNo.2まで、計6項目について調査研究を実施いたしましたが、そのうち各者の特徴が特に顕著であった、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」、1の(3)「運動と健康との関連についての取扱い」について、ご説明させていただきます。

まず、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」について説明いたします。答申〔体3〕ページをご覧ください。ここでは「身近な生活における健康等に関する課題を見付け、協働的な活動を通して、疾病等のリスクの軽減や生活の質の

向上などの保健の見方・考え方と関連付けながら、主体的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっているか。」という観点で調査研究を行いました。6者いずれの教科書も、学習の進め方に特長が見られましたので、その構成について説明いたします。

東書5・6年生の3ページをご覧ください。毎時間、4つの学習過程「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」で構成されています。特に特徴が見られるのは、「気付く・見つける」です。

13ページをご覧ください。第5学年「心の健康」の学習です。ここでは学習の始めのページに小学生の不安や悩みに関する統計調査を載せた上で、「あなたの今の、一番目のなやみごとはなんですか」という質問を投げかけることで、自らの生活と関連付けて課題の解決を目指す学習活動が可能な構成となっています。

次に、大日本3・4年生の10・11ページをご覧ください。各ページの左に「見つける」「考える やってみる」「まとめる」などのガイドが示されていることにより、見通しをもって学習活動に取り組むことが可能な構成となっています。特に、「みつける」では、巻頭の折り込みを使用し、導入の活動「つかもう」欄の下を隠すことで、自己の健康課題を見付けることが可能な構成となっています。

第3学年「健康な生活」においては、折り込みを使用し、「つかもう」で健康だと思う時について考えた後、ガイドに沿って「考える・やってみる」「まとめる」「広げる・深める」と学習することにより、主体的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっています。

続いて大修館5・6年生の4ページをご覧ください。3つのステップによる学習過程で「導入の活動」「課題を解決する活動」「まとめの活動」で構成されていることにより、見通しをもって学習することが可能な構成となっています。

16ページをご覧ください。第5学年「心の健康」の導入では、身近な生活の中やこれまでの経験から、直面しやすい不安や悩みについて取り上げることで健康課題をつかむ活動が設定されていることにより、自己の課題を見付けて、主体的・協働的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっています。1枚めくった18ページも同様です。このように、子どもにとって「身近な生活」から課題を見付けることができる工夫がなされていることが特徴です。

続いて文教社3・4年生の2ページの画面をご覧ください。各章の始めには学習内容が端的に示されるなど、児童が見通しをもって学習活動に取り組むことが可能な構成になっております。また、19ページの章末では「わたしの健康宣言」「わたしのいきいき宣言」などの「宣言ページ」が設定されており、学習で

理解したことを実際の生活において実践しようとする意欲を育むことが可能な構成となっております。

次に、光文5・6年生の53ページをご覧ください。このように、各章の始めには巻頭漫画が掲載されており、保健を学習する意義や大切さを感じられるような構成になっています。第6学年「病気の予防」においては、章の始めに「みなさんは、たばこやお酒にどのようなイメージをもっていますか？」と問いかけ、章に関わるテーマについて考える活動を設定することにより、主体的・協働的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっております。

最後に、学研3・4年生の16ページをご覧ください。毎時間の始めのページに、1時間の学習の進め方を3つのピースで示すとともに、学習課題と関連することについて記述する欄を設けることにより、自己の健康課題に気づき、主体的・協働的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっております。第3学年「健康な生活」における体の清潔に関するページでは、授業の導入に「ふり返ろう」という欄を設けて「1日の生活の中で、手はどんなことをしていますか」と焦点を絞って問いかけることで、身近な生活における具体的な活動を想起できるようになっています。

続きまして、調査研究項目の1の(3)「運動と健康との関連についての取扱い」についてご説明いたします。答申〔体5〕ページをご覧ください。この観点では、運動と健康との関連について具体的な考えをもち、自ら運動に親しもうとする意欲を引き出すことにつながる構成となっているかについて調査しました。保健の学習で取り上げられる運動には、学習内容に応じて運動の方法や留意すべきポイントが、それぞれ異なることに着目することが重要です。

例えば、第3学年では、「健康な生活のために、1日の生活のリズムに合わせて運動を取り入れること」、第4学年では「骨や筋肉の発達には、跳ぶ跳ねるなどの運動が効果的である」ことに触れ、子どもが具体的な取り組み方について考えをもてるようにする必要があります。

これらの視点から、特徴が顕著に表れている箇所について、ご説明いたします。

東書3・4年生の43ページをご覧下さい。章末資料「運動を楽しく続けよう」を掲載しており、第3学年及び第4学年において、運動と健康との関連について具体的な考えをもてるようにするため、いくつかの運動を例示し、自分の生活に取り入れたい運動について記述できる構成となっております。ご覧の通り、3年生で学習する「日常生活に運動を取り入れること」、そして4年生で学習する「骨や筋肉の発達に効果的な跳んだり跳ねたりする運動」が紹介されています。

大修館3・4年生の39ページをご覧ください。このように、各単元のポイン

トとなる箇所に「体育の窓」というコラムを本文中に設け、運動と健康との関連について理解を深められるようにすることにより、自ら運動に親しもうとする意欲を引き出すことが可能な構成となっています。ご覧の第4学年「体の成長」では、運動と健康との関連について具体的な考えをもつことができるようにするため、骨や筋肉の発達に効果的である「跳ぶ、はねるなどの動きで構成される運動」についてイラストを用いて詳しく紹介し、子どもが具体的な取り組み方について考えをもてるようにしております。

大日本5・6年生の8、9ページをご覧ください。第5学年「心の健康」において、体を動かすと心もほぐれることを実感できるようにするため、章の始めに1人でできるストレッチを具体的に示したり、友達と一緒に体じゃんけんをしたりする例を挙げてから、単元の学習を進める構成となっております。不安や悩みへの対処法の一つとして、運動を行うことを厚く取り扱った学習展開となっていることに特徴が見られます。

説明は、以上となります。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**石井委員** 2点お伺いしたいのですが、今の子どもたちの健康を考えたときに、デジタル機器の取扱いについて必ず出てくるんですけども、スマートフォンだったり、タブレットだったり、インターネット依存であったり、そういったものと体や心の健康との関りについて特長があれば教えてください。心の健康に関する取扱いに関わる話かと思いますが、コミュニケーションスキルを培う項目で各者特長があれば教えてください。

○**体育小委員会委員長** 1点目のデジタル機器の取扱いについて、東書については3・4年生の24ページに掲載されております。大日本については3・4年生の20ページに「明るさと目の健康」について掲載されております。大修館については3・4年生17ページに「スマートフォン、タブレットと生活のリズム」について発展として扱があります。学研は3・4年生24ページに発展として「タブレットを使うときには」と掲載されております。

○**教科用図書選定審議会委員** 教科用図書選定審議会委員の岩田でございます。直接の調査研究項目には無いこととなりますが、小委員会内で話題となりました。

たことを申し上げます。

直接的にコミュニケーションスキルを育むような単元や題材はありませんが、関連を上げるとすれば、各者の第4学年において、「体の発育・発達における異性への関心等について、どのように異性と接すればよいか」という記載があります。

東書37ページ「誰かを好きになる気持ち」については、他の人と違うと感じたり、不安になったりというところから関わり方を考えることが可能となっております。

大日本では、「心の変化は様々、気になる人が特にいないこともあれば、同性を好きになる」という内容が取り上げられております。

大修館では、「見たり、聞いたり、経験したことがある？」という日常の場面から、思っていることと反対のことを言ってしまうと悩んだり、そこから関わり方を考えていくということが出来ます。

文教社では、「異性への関心」について、お兄さん、お姉さんの体験談を取り上げております。

光文では、大修館と同様の内容を取り上げたページがございます。

学研では、「男子と女子では張り合うことが嫌だと感じる子へ何をしてあげたいか」を考えるとという題材が取り上げられております。

委員のご質問につきましては、方法・内容は違えども、各者とも取り上げることが可能となっております。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○道尻委員 各教科書とも書き込みをするような部分が設けられており、他の単元との繋がりに役立っていくものだと思いますが、その点の評価について、小委員会内で話題になったことがあれば教えてください。

○体育小委員会委員長 各者とも大きな違いはありませんが、特長としましては、課題探究の部分で振り返りを記載するなどの特長はあります。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**中野委員** 最近の感染症の流行していたことを考えると、感染症対策に対する各者の特長などあるでしょうか。

○**体育小委員会委員長** 大修館5・6年生50ページには、感染症予防のために気を付けることと、その理由を記載するところが設けられており、感染症を含め、病気を予防するための実践欲を高めることが可能なことが特長となっております。

○**教科用図書選定審議会委員** 補足をしますと、5年生の病気の予防の学習においては病原体のこと、あるいは感染経路のことは必ず取り上げられておりますので、各者ともに大きな差はないものと小委員会内でも話題になったところです。

○**中野委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**阿部委員** 2点お伺いします。1点目は、大日本8・9ページ「運動と傾向について」なのですが、ここでは一人でできるストレッチを紹介し、その後に友達とできるストレッチが紹介されており、私としては大きな特長になっていると考えております。このご時世ですし、一人でできることを知ることができるというのが他者にはない特長ではないかと考えていますが、小委員会内で話題になったことがあれば教えてください。2点目は、大修館の「体育の窓」というコラムがあるということでしたが、こういった特長があるのかももう一度教えてください。

○**体育小委員会委員長** 大日本5年生「心の健康の学習」では、不安や悩みへの対処方法の一つとして、体ほぐしを取り扱われております。そして、自身の健康に係るものであることから、対処の技術として一人でできることが大前提として大切なものとなります。そこから、体育の学習として複数で実施するものへ繋げていくこととなりますが、各者とも大きな差異は無かったものという話が出ておりました。

大修館のコラムについては、運動と健康の関連について、理解を深められるように設けられているものとなります。自ら運動に親しもうという意欲が引き出すことが可能な構成となっており、4年生「体の成長」では、「跳ぶ、はねるなどの動きで構成される運動」についてイラストを用いて詳しく紹介しており、また、運動は生涯を通じて骨や筋肉が丈夫になる効果が期待されることを学びます。そのことを活かして、体づくりの運動で継続的に取り組める運動の内容を考えて試してみるなど、運動習慣の確立のため、運動と健康の関連について具体的な考えを持てることが重要であり、その重要性を「体育の窓」として取り扱っていることが特長であると考えます。

○阿部委員 1点目の回答では、各者とも差異が無いということでしたが、同様の取組が他者でも取り扱われているということでしょうか。

○体育小委員会委員長 東書5・6年生16ページでは、実習として軽い運動が取り扱われております。

大修館5・6年生では、スクリーンにもありますとおり、「やってみよう」という項目で体ほぐしの運動と関連付けて紹介をしております。

学研5・6年生20ページでは、「体育と繋げ」というマークを付けながら、一人でできる運動の紹介をしております。

2ページにわたって単元の導入に扱っているのが大日本の特長となります。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 それでは、私からも小委員長にお聞きします。

調査研究の観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料からみた場合、特徴が顕著な教科書はどの教科書になりますか。その理由と併せて、お聞かせください。また、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○体育小委員会委員長 調査研究の観点Aに関して、「東書」「大修館」の2者となります。2者ともに身近な生活の面から事故やけがに繋がる危険を予測するとともに、回避する方法を考える活動を通して、子どもが主体的に課題を見つけ、見通しをもって解決を目指す学習活動が可能な構成となっていることが理由となります。調査研究の観点Bに関して、「東書」「大日本」「大修館」の3者とな

ります。東書及び大修館については、子どもが身近な生活から健康に関する課題を見つけることができる工夫がなされており、主体的・協同的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっております。また、3者ともに運動と健康との関連について、保健の学習内容に応じて、運動の取り組み方についても具体的な考えが持てるような工夫がなされており、自ら運動に親しもうとする意欲を引き出すことにつながる構成となっていることが、それぞれの理由となります。

○**檜田教育長** ただ今の意見によりますと、観点Aにおいて、特徴が顕著であった教科書は、子どもたちに身近な生活の場面から危険を予測して回避するという方法を考えている、そういう活動を通して、子どもたちが主体的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっていることから、「東書」「大修館」ということでありました。観点Bにおいては、保健において運動の取り組み方について具体的な考え方が掲載されているということ、子どもたちが自ら運動に取り組む考えが持てるような工夫がなされているなどの理由から、「東書」「大日本」「大修館」とのことでした。これにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

○**中野委員** 私は、「大修館」が良いのではないかと考えています。医学的項目の説明の正確さという点において、他者よりも優れていると見受けられました。

次点は「東書」が良いのではないかと考えます。

「大日本」について、3・4年生の内容は良いのですが、5・6年生になると他者と比較して特長があるとは見受けられませんでした。

○**阿部委員** 私は、「東書」と「大日本」と「大修館」の3者が良いかと考えます。先ほど質問をしました「大日本」の一人でできるストレッチについて、各者ともに差異は無いということでしたが、見開きで設けられており、友達と行うことも大切ですが、一人でどこでもできるということが特長であったと思います。

○**道尻委員** 私は、「東書」と「大修館」の2者が良いかと考えます。

先ほども質問をしました。書き込めるという点において、学校意見もかなり出ていたことから、教科書をよく読ませていただいた中で、記入欄の分量や質問の立て方などに特長があると考えたためです。

「大日本」については、他の委員からの意見もありますので、候補として残すことには異論ありません。

○佐藤委員 私は、「東書」が良いかと考えます。道尻委員もご指摘されていましたが、発問が具体的であることが理由となります。

「大日本」と「大修館」の2者については、他の委員と同意見です。

○石井委員 私は、「東書」と「大修館」の2者が良いかと考えます。2者ともに日常の生活の中から課題を見つけて行くという点について好感を持っております。特に「大修館」については、例えば5・6年生34ページ「犯罪被害の防止」になりますが、安全な行動をとるため、具体的な対処方法を子どもたちが考えられる工夫がされているためです。また、「学びを広げよう」という項目が充実していることも理由となります。

○檜田教育長 それでは、委員の皆様の意見や小委員会委員長の意見を踏まえ、まず、「東書」「大修館」「大日本」の3者に絞らせていただき、また、本日は、1者に絞り込むのではなく、引き続き調査等をいただいた上で、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○檜田教育長 では、そのようにいたします。体育小委員会の委員長、ありがとうございました。

○檜田教育長 続きまして、「道徳」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○檜田教育長 それでは、道徳小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○道徳小委員会委員長 小学校部会特別の教科 道徳小委員会委員長の三戸部です。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「教出」「光村」「日文」「光文」「学研」の6者、合計36点の教科書です。特別の教科 道徳小委員会において、教育委員会が定めた基本方針に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので報告いたします。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。インデックス〔道徳採択参考資料〕の〔道徳2〕ページ、様式2の「取扱内容、内容の構成・排列」のうち、「体験的な学習について」に各者の特長が見られました。どの者も、体験を生かした活動が取り入れられておりますが、特に、「光村」「光文」の2者に特徴が見られましたので、説明いたします。スクリーンをご覧ください。

こちらは、光村6年51ページです。「考えるヒント」が設定されており、役割演技の活動や話合いで役立つ言葉、話合い方が示され、体験や思いを表出する学習が可能な内容となっております。特に、「演じている人の表情やしぐさをよく見て」「言っていることをよく聞いて」という投げかけにより、細かなニュアンスや感じ方にも目を向けて考えることが可能な内容となっております。

こちらは光文1年14ページです。コミュニケーションスキルを高めるための「みんなでやってみよう!」というコラムが設けられており、実際の問題場面を想定し、相手の気持ちを想像して言動を考えることが可能な内容となっております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。インデックス〔道徳〕に答申がございます。〔道3〕のページをご覧ください。はじめに、本市の道徳小委員会でまとめた調査研究結果の全体に関わる部分について説明いたします。計6項目について調査研究を実施しましたが、そのうち、1(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」については、特に、「光村」「光文」「学研」の3者に特徴が見られましたので、説明いたします。

光村6年10ページをご覧ください。第3学年以上の最初の教材には、本文と並行しながら、考えたいことに気付くよう働きかける工夫がなされており、自分との関わりとつなげて考えることが可能な内容となっております。

次に、6ページをご覧ください。巻頭の「話し合うためのコツ」には、反応の仕方や聞き方、話のつなぎ方が例示されており、他者との対話を通して、自分の考えを深める学習活動が可能な内容となっております。また、92・93ページをご覧ください。教材の話とコラムを合わせて学ぶ「情報と向き合う」が掲載されており、ページの最後にある「話し合ってみましょう」では、情報モラルに関わって学んだ内容について家族と一緒に考えることが可能な内容となっております。

ます。

続いて、スクリーンをご覧ください。こちらは光文2年の目次です。全学年において、重点主題として「いじめ、命の尊さ、学年独自主題」の3テーマを設定しており、学年独自主題では、1・2年では『へこんでも立ち直る力』、3・4年では『みんなで力を合わせて』、5・6年では『世界中のいろいろな人とつながるために』を設定しており、さまざまな観点からこれらの主題について考えを深めることが可能な内容となっております。また、1年116ページをご覧ください。コラム「へこんでも立ち直る」では、自身が持つ心の力について、活動を通して、自己肯定感を高め、くじけることがあっても立ち直ることの良さに気づくことが可能な内容となっております。

学研6年63ページをご覧ください。「深めよう」の特設ページが配置されている教材があり、「つかもう」から始まる学習過程が示されており、学んだことを生かして自ら課題を見付け、考えを深めることが可能な内容となっております。また、学研6年83ページをご覧ください。全学年に、特設ページ「心のサポート」が配置されており、学習したことを生かして自分の生活を見つめ直したり、考えを広げたりすることが可能な内容となっております。ここでは、「食べ残されたえびになみだ」という教材を通して理解を深めた「食生活に関わって、節度を守り、節制を心がけること」を生かして考えることが可能であるとともに、自分たちの生活や安全について考えを深めることが可能な内容となっております。

次に、2(1)「自分や他者の生命を尊重する心を育む学習活動の取扱い」について説明いたします。どの発行者も、命に関する教材やいじめに関わる教材を、ユニットにして配置したり、複数の教材を掲載したりするなどの工夫が見られましたが、ここでは、特徴的な教材を1つ取り上げて説明いたします。

東書6年68ページをご覧ください。第6学年「たった一つの命だから」では、自分の命と向き合い病気と闘った女の子が取り上げられており、精一杯生きることについて考えを深めることが可能な内容となっております。

教出5年162ページをご覧ください。第5学年「希 光の中を歩んだきょうだい」では、重い病気にかかっていた二人の兄弟が必死に生き、学校に通おうとする姿や、亡くなった後のお母さんやお父さんのメッセージから、命を大切にすることについて考えることが可能な内容となっております。

光村6年184ページをご覧ください。第6学年「恋ちゃん—はじめての『みとり』」では、曾祖母の看取りを経験した内容から、命の連続性や有限性に気付くとともに、命を大切にすることや心情や態度を育むことが可能な内容となっております。

ます。

日文4年96ページをご覧ください。第4学年「いじりといじめ」では、クラスみんなに間違えた発言を笑われる様子が取り上げられており、「笑っていいのか？」という友達の疑問について考える活動を通して、いじめや他者の気持ちについて深く学ぶことが可能な内容となっております。

光文1年72ページをご覧ください。第1学年「やさいむらの こどもたち」では、登場人物を野菜に見立て、外見にとらわれず、どのようなことを大事にするのかを吹き出しに書き込めるような展開となっており、自分や他者を大切に思い、多様性を認め合えるような学習内容となっております。

学研4年100ページをご覧ください。第4学年「友達が泣いている」では、泣いているAさんや泣かせてしまったBさんやその周りにいる子たちの発言について考える活動を通して、だれかをいじめる行為やそれを助長する行為、見て見ぬふりをするのは良くないことであり、どのように関わっていくべきなのかを考えることが可能な内容となっております。

以上、特別の教科道徳について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**阿部委員** 先ほど、課題探究的な学習活動の取扱いに係る説明において、光文は各学年独自の目標があるということでしたが、他者には学年ごとの主題があるのでしょうか。

○**道徳小委員会委員長** とりわけ明確にと打ち出しているのは光文となります。同者では、大きくレジリエンスということに関して、1年生から6年生まで通じて、いわゆる心の力を築くということの取り上げ方をネガティブではなく、ポジティブに捉えているというのが特徴となります。

他者においても、現代的な課題については、各学年の発達に応じて取り上げているというのは特長としてあります。

○**阿部委員** 特に学年ごとに主題を設けなければならないということではないという理解でよろしいでしょうか。

○**道徳小委員会委員長** お見込みのとおりで、各者の持ち味だと考えております。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○石井委員 2点お伺いします。1点目は阿部委員の質問に関連するのですが、光文の「へこんでも立ち直る力」について、6年生ではレジリエンスという具体的な単語が出ていますが、他者にも同様の取扱いがあるのか教えてください。

2点目は、光文1年生「やさいむらのこどもたち」について、多様性を認める内容となっておりますが、他者で多様性に触れられているものがあれば教えてください。

○道徳小委員会委員長 レジリエンスという単語を使用しているのは光文のみかと考えます。ただし、他者では、いじめを題材として取り扱っているという印象があります。

多様性については、教出4年生「〇〇のくせに」という、ジェンダーや平等に関する題材が取り上げられております。

そのほか、光文6年生の特設ページにLGBTQの紹介や性不選択が取り上げられております。

いわゆるSDGsの中にそういった項目がありますので、各学年の発達に応じて、適宜取り扱ってはおりますが、多様性に関して取り上げているのは、今申し上げた2者になります。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○中野委員 各者共に同様の教材を扱っているものもあれば、独自に取り扱っている教材もありますが、独自に取り扱っている教材について特長があれば教えてください。

○道徳小委員会委員長 道徳については、以前から取り上げられている定番の教材がありまして、例えば「お母さんの請求書」は、各者で取り上げております。各者独自で取り上げている教材については、各者の狙いに応じたものとなって

いると考えます。

○中野委員 定番の教材については、評価は固まっているものだと思いますが、独自教材については、話の展開として苦しいのではと思われるようなものがあったため、伺った次第でした。小委員会内では独自教材の多寡について話題になったことはあるでしょうか。

○道徳小委員会委員長 特段話題になったことはありませんでした。ただし、人物を取り上げるところもありますので、題材にからめて、コラムの中でオリンピック選手を紹介するなど、各者ともに工夫をされている印象はあります。

○中野委員 アフガニスタンの中村医師が取り上げられているものもあれば、レ・ミゼラブルを取り上げているところなど、全く毛色が異なるものを取り上げられているのを見て、それぞれ特長があるものだった次第です。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○阿部委員 光村6年生の51ページに、「演じて考えよう」というところを説明いただきましたが、実際の授業で子どもたちが演じあって、演じている内容をインプット・アウトプットするということは行われているのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 道徳においては、役割演技という言い方をしますが、こちらは6年生に限らず、1年生も行う学習活動の一つとなります。特に道徳の場合は、書くといった学力がベースとなる部分が無くても、考えて議論することが大事ですので、演じることや、セリフの内容を子どもたちみんなで考えるという活動が有効なものと考えます。ただし、演技というと学習発表会の劇のように考え、難しく捉えられてしまうかもしれませんが、教科書にもあるように、場面を区切った際に出てくる一言を取り上げていること、そのセリフが出た理由を交流の中で取り上げていくこととなりますので、低学年の中からそういった活動をしていくことは有効と考えております。

○阿部委員 難しそうな印象はありましたが、今の説明ですと、そこまで気にせずとも良いということでしょうか。

○**道徳小委員会委員長** 低学年の内から道徳の中で経験することで、例えば国語など他の教科にも派生していくこととなりますので、小学校の中で良く行われている活動の一つとなります。

○**阿部委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○**檜田教育長** それでは、私からも小委員長にお聞きします。

調査研究の観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料からみた場合、特徴が顕著な教科書はどの教科書になりますか。その理由と併せて、お聞かせください。また、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○**道徳小委員会委員長** 調査研究の観点Aに関して、特徴が顕著な教科用図書は、「光村」「光文」の2者となります。2者ともに、体験的な学習を通して、一人一人の考え方を大切にしながら、道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりして、自己の生き方についての考えを深める学習活動が可能な内容となっていることが理由となります。調査研究の観点Bに関して、「光村」「光文」「学研」の3者となります。光村は本文と並行しながら、考えたいことに気付くよう、働きかけることが工夫されているとともに、特に他者との対話を通して、自分の考えを深める学習活動が可能な内容となっていること、光文は、全学年において重点縛りとして、いじめ、命の尊さ、学年独自取材の3つのテーマを設定しており、学年独自取材では「へこんでも立ち直る力」を取り扱うなど、様々な観点から、これらの主題について考えを深めることが可能となっていること、学研は、「深めよう」の特設ページが配置されている教材があることで、学んだことを活かして、自ら課題を見つけ、考えを深めることが可能な内容となっていることがそれぞれの理由となります。

○**檜田教育長** ただ今の意見によりますと、観点Aにおいて、特徴が顕著であった教科書は、体験的な学習を大事にしながら、自己の生き方について考えを深める学習活動が可能な内容となっていることから、「光村」「光文」ということでありました。観点Bにおいては、他者との対話を通して、自己の考えを深めること、様々な観点から主題について考えを深める、あるいは学んだことを活かしてき

らに考えを深めていくという理由から、「光村」「光文」「学研」とのことでした。これにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

○石井委員 私は、「光村」「光文」の2者が良いのではないかと考えております。特に光文の「みんなでやってみよう」が良いと考えており、コミュニケーションスキルやレジリエンスを養う力について、小学生の時から学べるのは良いのではないかと考えました。

また、多様性という点からは、「やさいむらのこどもたち」については、1年生から性別や国籍などの色々な違いを超えたコミュニケーションの大切さを学べるのが良いのではないかと考えました。

さらに、情報モラルについて、1年生の「スマートフォンってどうやって使うの？」で具体的に示されており、保護者としては、1年生でスマートフォンを持たせている家庭もあるので、非常にありがたいと思いました。

他者にも情報モラルの教材はありますが、光文には前向きさを感じられ、6年生の「情報を有効活用」まで繋がるのが良いかと考えました。

○阿部委員 私も、「光村」「光文」の2者が良いのではないかと考えております。

課題探究的な学習活動の取扱いについて、光文は学年ごとの重点主題があること、テーマも共感できるものであると感じました。

また、自分や他社の声明を尊重することについて、光村は身近に起こりうる「見取り」という絶妙なテーマを上げられていたことから、好感や共感を得ました。

○佐藤委員 私も、「光村」「光文」の2者が良いのではないかと考えております。

2者共に、冒頭の「学び方」というのが丁寧に取り扱われていること、それぞれの発問に有効なものが多いこと、コラムの内容も良いものが掲載されていることが理由となります。

○道尻委員 私も、「光村」「光文」の2者が良いのではないかと考えております。

光文では、多様性が学習内容として取り上げられており、光村では、今の社会生活上で非常に重要なものである情報モラルの内容が良いものであると考えたためです。

○中野委員 私は、「光村」が良いのではないかと思いましたが、他の委員の皆

さんの意見も重々わかる場所ですので、同じ2者で良いと考えます。

○**檜田教育長** それでは、委員の皆様の見解や小委員会委員長の見解を踏まえ、**「光村」「光文」**の2者を選定の候補とすることとし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○**檜田教育長** では、そのようにいたします。道徳小委員会の委員長、ありがとうございました。

○**檜田教育長** 続きまして、「外国語」について、審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○**檜田教育長** それでは、外国語小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○**外国語小委員会委員長** 小学校部会、外国語小委員会委員長の加藤でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「開隆堂」「三省堂」「教出」「光村」「啓林館」の6者、合計16点の教科書です。これらについて、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、外国語小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず【教科の目標】について確認させていただきます。学習指導要領では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指しております。小学校外国語では、学んだ英語を生かして、身近で簡単な事柄について、お互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動が重視されております。

それでは、以上のことを踏まえ、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会

が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。採択参考資料の外国語3ページから、外国語18ページまで、調査研究結果を示しております。

まず、どの者についても、誕生日にほしいもの、好きな教科や食べたいものなどについて、自分の考えや気持ちを伝え合う活動や、行きたい国に係り理由をたずねあうなどの短い会話をする活動など、「話すこと（やり取り）」の言語活動が掲載されております。

次に、採択参考資料外国語16から17ページの「様式4」をご覧ください。

「話すこと（やり取り）」のユニット数及び総ページ数について説明いたします。

様式4の表の通り、「東京書籍」は、第5、6学年において、話すこと（やり取り）の活動が他者と比べると多くなっております。

続きまして、「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申のインデックス外国語の〔外2〕ページをご覧ください。外国語においては、4つの具体項目について調査研究いたしました。そのうち、1の（1）課題探究的な学習の取扱いについてと、1の（2）話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、聞くことの領域における学習の取扱いについての2点において、各教科書の長がみられましたのでご説明させていただきます。

答申のインデックス外国語の〔外3、4〕ページをご覧ください。1の（1）課題探究的な学習の取扱いについてです。まずはじめに、単元のとびらのページで特徴があった3者についてご説明させていただきます。

東書5年8・9ページをご覧ください。8ページ上に「名前や好きなもの・ことを伝え合おう」という活動目標、さらに、9ページ上の星印には、「世界の人と理解し合うために、名前などについて考えよう」と明記されております。この星印には、何のために活動するのかを考える視点が明記されております。

次に、光村5年16・17ページをご覧ください。17ページ上、「Hop!」「Step1」「Step2」「Jump!」には、単元の学習の流れが記載され、さらに、「クラスの友達と仲良くするために、めいしを作って自己紹介することができる」という、活動目標と何のために活動するのかを考える視点が明記されております。

このように、この2者は、「何のために活動するのか」という視点から、学ぶことの意義を考え、主体的に学びを進めることが可能な構成となっております。

次に、啓林館5年66・67ページをご覧ください。こちらは、5年生の単元のとびらのページですが、英単語が掲載されておらず、ダイナミックな絵が掲載されております。挿絵から想像を膨らませることで、「これは英語でどのように表現するのだろう」と疑問をもち、自ら目標をもって学習することが可能な構成と

なっております。

次に、単元の構成について、特長があった2者についてご説明させていただきます。

スライドをご覧ください。開隆堂5年16～21ページとなります。各学年ともに単元末の構成が、「Let's Try (ペアで伝え合うパート)」、「Activity (グループで伝え合うパート)」、「Let's Write (音声で十分慣れ親しんだ英語を使って、自分のことを書いて伝えるパート)」が掲載されており、スモールステップで自分の考えを整理し、自己表現することが可能な構成となっております。

引き続き、スライドをご覧ください。教出5年12～18ページとなります。単元の構成についてですが、12ページ「Let's Watch」の映像を視聴することで単元の見通しをもち、14・15ページの「Let's Listen」で十分に聞く活動を行い、音声に慣れ親しんだ後に16・17ページの「Activity」を行うことで、スムーズに自己表現することが可能な構成となっております。

次に、単元末のふりかえりで特徴があった三省堂についてご説明いたします。スライドをご覧ください。5年33ページとなります。単元末のふりかえりスペースには、「友達がしていたことでまねしたいことはありましたか」という記述が掲載されており、これまでの言語活動を振り返ったり、友達の表現を思い出したりすることで、次の学習に生かせることを整理し、課題に向かう意欲を高めることが可能な構成となっております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」2の(2)「話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、聞くことの領域における学習の取扱い)」について説明いたします。答申のインデックス外国語の〔外5〕ページをご覧ください。特長があった2者についてご説明させていただきます。

東書6年86・87ページをご覧ください。87ページのYour Goalは、単元終末の伝え合う言語活動となっておりますが、この言語活動の後に、友達と伝え合った内容について、改めて整理して書く、という構成となっております。

開隆堂6年56・57ページをご覧ください。57ページのActivity3で夏休みの思い出について発表した後に、Let's Write3で「夏休みの思い出について発表したことをもとに、したこととその感想を1つずつ選んで書く」という構成となっております。

このように、「東書」「開隆堂」の2者は、自分の思いをアウトプットする言語活動後に「書く」という流れになっており、発表に向けて、あらかじめ書いて準備するのではなく、思考しながら自らの思いを伝える力を育成することが可能な構成となっております。なお、他の4者につきましては、答申にありますよう

に、単元の途中に1～2文の英文を書き、その英文を活用して伝え合う言語活動という流れになっております。

なお、調査研究項目にはございませんが、学習者用デジタル教科書についても簡単にご説明させていただきたいと思っております。デジタル教科書の主な機能は、「文字を拡大する」「文字などを書き込む」「書き込んだものを保存する」「ルビ機能」「動画やアニメーションによるモデル提示」といった機能でございますが、これらの機能は、どの者にも備わっている基本的な機能となっております。このことは、採択参考資料の「その他」にも記載されております。

なお、各者、学習者用デジタル教科書は、現段階においてお試し版であり、見開き4ページ分程度閲覧することが可能でございます。閲覧可能なページにおいて、具体的なイメージをしていただくために2つを例に説明させていただきます。

テレビ画面をご覧ください。開隆堂 5年 Lesson5 において、デジタル教材でビンゴシートを使うことができるようになっております。「一人で」「みんなで」を選択することができ、児童が個別学習、一斉授業など、多様な学びのスタイルを選択することで、学びを高められる構成となっております。

また、光村 5年 Unit5 では、ユニットのゴールである「Jump!」のページに、「Phrase Hunt」が掲載されています。「Phrase Hunt」のボタンを押すと、既習事項の中から単元末の言語活動で使えそうな表現を確認することができるので、友達と共有しながら学習を進めることができる内容となっております。

以上、外国語について説明させていただきました。

○**檜田教育長** ありがとうございます。それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○**中野委員** 英語については、世界中の方とのコミュニケーションツールであるかと思いますが、教科書のイラストを見ていますと、日本人と西洋人という構図が凄く目立っており、多様性に欠けているのではないかと思ったのですが、そういった点で各者の特長はあるのでしょうか。

○**外国語小委員会委員長** 小員会の中では、各者の個性であり、特段の偏りがあったという意見はありませんでした。

○**中野委員** 自身の経験から、昔の教科書は西洋人と日本人ばかりが載ってい

たように覚えており、昨今ではだいぶ変わったものかと思っていたのですが、拝見すると、そう大きく変わっていない印象を受けたのでお伺いしました。

○中野委員 補助教材がついている教科書とついていない教科書があるかと思いますが、授業における活用の可能性について教えてください。

○外国語小委員会委員長 6者のうち、4者に別冊で補助教材がついておりますので、使い勝手は良いのかと考えます。

また、中学生となった際、継続性という観点からは引き続き使用できるという点で利点があるかと考えます。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○佐藤委員 高校の英語の教科書ですと、能力の差に応じて種類が分かれておりますが、東書と開隆堂であれば、これまでの学習の積み上げという観点から、どちらの難易度が高い、もしくは基礎向けとなるのでしょうか。

○外国語小委員会委員長 私の印象もありますが、開隆堂はレッスンの内容がかなり細かくなっており、丁寧な扱いができるかと考えます。

一方、東書は各項目の繋がりなどは保たれてつつ、多少の自由度があるものかと考えます。

○佐藤委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○石井委員 話すこと・聞くこと領域の学習の取扱いで、東書と開隆堂は、言語活動後に書くこととなっており、他者は途中で書くことになっているとの説明でしたが、それぞれの利点などあれば教えてください。

○外国語小委員会委員長 十分な言語活動を行い、子どもたちが理解し、自身が書きたくなっているという状況で書かせる活動と、少しずつ書く活動をし、子ど

も自身がこれなら話せるという積み上げ方の違いだと考えます。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 札幌市の子どもたちにとっては、いずれの学習方法が良いといった話は小委員会内でありましたでしょうか。

○外国語小委員会委員長 札幌市の英語の重点でもありますが、十分な聞く・話すの活動、それも目的や場面がはっきりした状況の中で、自分の考えや気持ちを伝えあうということを大事にしておりますので、そこをベースに積み上げたいと考えております。

○檜田教育長 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 それでは、引き続き小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料からみた場合、特徴が顕著な教科書はどの教科書になりますか。その理由と併せて、お聞かせください。また、調査研究の観点Bである「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○外国語小委員会委員長 調査研究の観点Aに関して、第5・6学年において、話すこと・やりとりの活動が他者と比べると多いという理由から、「東書」に顕著な特徴が見られました。調査研究の観点Bに関して、「東書」「開隆堂」「光村」の3者となります。東書・光村は「何のために学習するのか」という視点が明記されており、子どもが学ぶことの意義を考えながら、主体的に学びを進めることが可能な構成となっていること、東書・開隆堂は自分の思いをアウトプットする言語活動の後に各活動が位置づいており、学んだことを活かし、思考を深めながら、自分の思いを伝える力を育成することが可能な構成となっていることなどが、それぞれの理由となります。

○檜田教育長 ただ今の意見によりますと、観点Aにおいて、特徴が顕著であっ

た教科書は、話すこと、特にやり取りの活動が他者と比べて多いことから、「東書」でありました。観点Bにおいては、子どもが学ぶことの意義を考え、主体的に学びをすすめられることや、自分の考えを伝えるということが可能となっていることから、「東書」「開隆堂」「光村」とのことでした。これにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

○佐藤委員 札幌市として、自分の気持ちを伝えあうということを重視しているとのことですので、私は、「東書」「開隆堂」の2者が良いのではないかと考えます。

○阿部委員 佐藤委員のご意見と同じで、大人でも自分の考えを整理することは難しいですし、まして外国語となった時に、一旦整理してから会話をするという流れは重要かと考えますので、「東書」「開隆堂」の2者が良いのではないかと考えます。

○石井委員 私も、十分な言語活動を行った後に書くことを学べる「東書」「開隆堂」の2者が良いのではないかと考えます。

○道尻委員 まず、話すこと・聞くことを十分に理解したうえで、書くことを学ぶという考えに賛成しますので、私も、「東書」「開隆堂」の2者が良いのではないかと考えます。

○中野委員 私は、「東書」が良いのではないかと考えますが、他の委員の皆さんの意見も重々わかる場所ですので、「東書」「開隆堂」の2者で良いと考えます。

○檜田教育長 それでは、委員の皆様の意見や小委員会委員長の意見を踏まえ、まず、「東書」「開隆堂」の2者を選定の候補とすることとし、8月3日（木）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○檜田教育長 それでは、協議第1号の本日の審議を終了いたします。

○**檜田教育長** 次回は8月3日(木)に引き続き審議いたします。小学校部会、小学校部会と兼ねている義務教育学校前期課程部会の全11教科13種目並びに、高等学校部会、高等学校部会と兼ねている中等教育学校後期課程部会及び、特別支援教育部会について審議いたしますので、よろしく申し上げます。

○**檜田教育長** その他、各委員から何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** 以上で、令和5年第12回教育委員会会議を終了いたします。